

唐物語 本（第一～第二十九）

梶山文学園大学デジタルライブラリー

梶山文学園大学図書館

高母乃加太李

本



校合本

高母乃加太李

本

文國

補
唐物語 尊經閣文庫藏本
上以之一校し了る。是古事也。
神文又庫卒力之 三平校
今本第八従一位至七至

李部筆

漢



946 366

その一のものほど人ふを嘗めたあましに酒をやる
お年よりかよひとく飲むすれどこの地うらわで
あれ人乃つこれもまたおもひくくいふ
おもひくくいふてある人のへふをきくあは
やまくまくまほくせたまよとくはははのふ
おもひくまくまほくせたまよとくはははのふ
おもひくまくまほくせたまよとくはははのふ
おもひくまくまほくせたまよとくはははのふ

えどにまつたるは西行のてうかく
なれどさへとてあらわすがくとれる
いそよれはひる一きをせんのとへあらわ
せんとすとあらわすがくとむけられ
うへとあらわすとあらわすがくとむ
る一がくとあらわすとあらわすがくとむ
文化ニキアラガシイツの

in Choson no soto
江戸 楊子

まへるやいよほにば積庫の下がり方を
有るやいせりおどり出でゆる事多き
物知りゆきゆきの事多き事多き
いわゆる事多き事多き事多き事多き
乃世よき事多き事多き事多き事多き
一と西上へ乃も於て書院の事多き事多
き事多き事多き事多き事多き事多き
事多き事多き事多き事多き事多き

うのまへるをせんりとせんりとせんり
おとこひのまへるをせんりとせんりとせんり
せんりとせんりとせんりとせんりとせんりとせんり

かくはく

かくはく

かくはく

晋書王徽之字
子猷嘗居山陰
夜雪初霽月色
清朗四望皓然
忽憶戴逵時達
在剡便夜乘小
船詣之經宿方
至逵門不前而
及日本上涉興
行興盡而久何
必見安道邪

むくよめ歎山陰
らのよほくよくよくよくよくよくよくよくよく
もとよくよくよくよくよくよくよくよくよくよく
かれてよくよくよくよくよくよくよくよくよく
よくよくよくよくよくよくよくよくよくよくよく
よくよくよくよくよくよくよくよくよくよくよく
戴安道をよみよみよみよみよみよみよみよみ
よみよみよみよみよみよみよみよみよみよみ

是へ一段取旨氏
瑟琶行意ヲ長
篇故令累々之

人よりあらへておはづかしのうふく
わがまことにあつたる處をかたるべく一哉
安道ハ刻懸エンケンすり所によつてかくはんのうふく
れをうつせられしとあることをかくはんにて
かくはんのうふく
もうえかね十五年秋白雲天はるはるに問
といひてからむかはんのうふくのうふく
すよすよかはんのうふくのうふくのうふくのうふく
かはんのうふくのうふくのうふくのうふくのうふく

ウタシテハ
詞花集雜上
左宗文次郎
歌波之介
さよりとくのうふく
りりうきとくのうふく

ほんとくのうふくのうふくのうふくのうふく
わがまことにあつたる處をかたるべく一哉
テうつせとおはづかしのうふくのうふくのうふく
じくはんのうふくのうふくのうふくのうふくのうふく
かくはんのうふくのうふくのうふくのうふくのうふく
れをうつせられしとあることをかくはんにて
かくはんのうふくのうふくのうふくのうふくのうふく
入ふれどりのうふくのうふくのうふくのうふく
うふくのうふくのうふくのうふくのうふくのうふくのうふく

汝遂不言不笑
汝遂不言不笑

尤傳昭公二十
八年叔向曰昔
賈大夫娶妻
而美三年不言
不笑御以如皋
射雉獲之其妻
始笑而言賈大
夫曰才之不可
以已我不能射

毛氏曰此尤傳也
賈氏曰此叔向也
人謂之尤傳者
以其子尤也

前漢司馬相如
蜀郡成都人也
少好謗言家貧
無以自業及卓
文君從奔後卓
王孫分與財物
為富人旧注云
其柱曰大丈夫
不乘駒馬車
後過此橋

後漢梁曉字伯
鸞扶風平陵人
同縣孟氏有女
狀肥醜而黑鵠
聞而聘之及嫁
始以裝飾入門
七日而鳴不登
妻自有隱居之
服乃更為稚髻
著布衣搔首而
前鴻大喜曰真
梁曉妻

せうり 鶯鳴のへんぬえにひじく
まけあきのとせよまくはなくも
まきのとせよまくはなくも
どくかとくとすくのよみしてからだ
まつやまつやまつやまつやまつやま
とくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとく

晋書石崇字李
倫有妓曰綠珠
美而艷中令
孫弁使入求之

らへて蜀の國へ、あとでさへうきのうちの
のくへきでなくして、すん様とかくやうとも
それかくはまく、くもひぐはるかにあつ
あつたうとせんめんこだわらきくさん
きく

きくかくわがうきの草の葉をせむ
のぼれほきくはるはるはるはるはるはる
けぬはうき
いし石季倫とよしとよしとよしとよし
うにあはせのうごとよしとよしとよし

相ぬすちがく車ばかくすかかくすかかくす
あかくすかくすかくすかくすかくすかくす
けちようほのだくよくよくよくよくよくよく
ときよがわけとがれどもかくよびぐくよびぐ
まく車ばく車ばく車ばく車ばく車ばく車
づくとももまく車ばく車ばく車ばく車ばく車
よすよすなと一月やすくまく車ばく車ばく車
ゆかくみくよ昇遷橋とくの橋とくの橋とくの橋
とくの橋とくの橋とくの橋とくの橋とくの橋
肥馬

使者曰受命指
示綠珠崇勃然
秀憲乃勸趙王
倫誅崇謂绿珠
曰我今為弟得
罪綠珠泣曰當
致死於君前因
自投于樓下而

金言れのへうらへみたのまいわをりて
うらじだりじまくよふりがせまばうり
てはるはるとまくわくにんあまくわ
きうすづれうりまくべさよがづくらも
うくまくとどく人様まうらるはるひ
なれうくまくとまくわくにんあまくわ
うくまくとまくわくにんあまくわ
うくまくとまくわくにんあまくわ
うくまくとまくわくにんあまくわ
うくまくとまくわくにんあまくわ
うくまくとまくわくにんあまくわ

子はやうとあつめいひこむてんまと
がふくの所浦はひまくにまくに橋のまくまと
まくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまく

是二段取文選
宋玉賦意長篇
故今畧之

む／＼宋玉と云ふ人かくらすゝせり
たゞひやくまえに學すたゞひきとすあきらん。
すけふ車のとくまにまくまなたゞひきくうつ
うれ女ねづらもさうの宋とばりくとくわざくんの
まくびじゆふ事のがくよるひゆきまくらうて
うかへるどこせまでをくべてんやくまくけ
まくまくとてほひ／＼あくらむあくらがくご
あくらとく

まくわれてことよなむれりとくまく

白氏文集燕子
樓三首序云徐
州故尚書張有
愛妓曰盼，善
歌舞，雅多沉鬱。
張尚登宴予酒
醉出歌，以佐
歡。尚登以
華東流而彭城
中，有燕子樓，時
念曰：愛而
嫁居，獨在
塊然，千餘
在尚。

じ／＼盼とくまくとくまくとくまく

チヤウシヤウジヨ

とくまくとくまくとくまくとくまく

あくらまくとくまくとくまくとくまくとくまく
思ふとくまくとくまくとくまくとくまくとくまく
かくまく
じ／＼盼とくまくとくまくとくまくとくまく
て／＼とくまくとくまくとくまくとくまくとくまく
とくまくとくまくとくまくとくまくとくまくとくまく
とくまくとくまくとくまくとくまくとくまくとくまく
とくまくとくまくとくまくとくまくとくまくとくまく
ほのとくまくとくまくとくまくとくまくとくまく
とくまくとくまくとくまくとくまくとくまくとくまく
とくまくとくまくとくまくとくまくとくまくとくまく

とおもひてかまつをすがわへるれしめがち
んごせなむらかはざつはくはにせよゑえ
まれいき門をくわづてきだるじへくわす
そくくわくわくわくわくわくわくわく
けのたうすよとててもあげまくわくわく

とおもひてかまつをすがわへるれしめがち
んごせなむらかはざつはくはにせよゑえ
まれいき門をくわづてきだるじへくわす
そくくわくわくわくわくわくわくわく
けのたうすよとててもあげまくわくわく

あがまくわくわくわくわくわくわくわく
まくわくわくわくわくわくわくわくわく
まくわくわくわくわくわくわくわくわく
まくわくわくわくわくわくわくわくわく
まくわくわくわくわくわくわくわくわく
まくわくわくわくわくわくわくわくわく

見

月日代りてかくはくはくはくはくはく
まくわくわくわくわくわくわくわく
まくわくわくわくわくわくわくわく
まくわくわくわくわくわくわくわく
まくわくわくわくわくわくわくわく
まくわくわくわくわくわくわくわく

すやくの四人には、かのじゆうひが、はるかに
あつてひやうのよしをひきよしむるに、わざわざ
手と手を握りしめ、あくまでおもむきをせん
と、まことに、まことに、まことに、まことに、
まことに、まことに、まことに、まことに、まことに、
まことに、まことに、まことに、まことに、まことに、
まことに、まことに、まことに、まことに、まことに、
まことに、まことに、まことに、まことに、まことに、
まことに、まことに、まことに、まことに、まことに、
まことに、まことに、まことに、まことに、まことに、
まことに、まことに、まことに、まことに、まことに、

まことに、まことに、まことに、まことに、まことに、
まことに、まことに、まことに、まことに、まことに、
まことに、まことに、まことに、まことに、まことに、
まことに、まことに、まことに、まことに、まことに、
まことに、まことに、まことに、まことに、まことに、
まことに、まことに、まことに、まことに、まことに、
まことに、まことに、まことに、まことに、まことに、
まことに、まことに、まことに、まことに、まことに、
まことに、まことに、まことに、まことに、まことに、
まことに、まことに、まことに、まことに、まことに、
まことに、まことに、まことに、まことに、まことに、
まことに、まことに、まことに、まことに、まことに、
まことに、まことに、まことに、まことに、まことに、

あらそひとみゆかてうきよし
ちうるまくはりうきよし
かくらむなまくへりよのやうでくらん
時ひ新ひよてねほくとくとくとく
あてどく月ばくとあとくとくとくとく
アシマクシテミカシマクシテミカシマ
も一おとくとくとくとくとくとくとくとく
アシマクシテミカシマクシテミカシマ
キーダムのうりてとくとくとくとくとくとく
つをくじくとくとくとくとくとくとくとくとく

新加原
入製方女書
余吉子精開事

ひむすめのはるひわらわらわらわらわら
いふあはれむせよひわらわらわらわら
まのくがくとまくわらわらわらわら
をまくわらわらわらわらわらわらわら
をまくわらわらわらわらわらわらわら
れなまくわらわらわらわらわらわら
くらまくはりうきよし
はくまくはりうきよし
はくまくはりうきよし
はくまくはりうきよし
はくまくはりうきよし
せむくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

列仙傳簫史者
秦穆公時人善
吹簫，改鳳凰作
鳳笙，似鳳凰聲。
其上不下數丈。
一曰妻字季，年
王，楊公女，一日
隨鳳凰飛去。

かくの門の水をかうねあつて手を拂はうてまづき
ちがふとわざれ。まづりんとよむとぞむらははる
じい。秦穆公。おれじますよ。昇る。と。手ひらひをさす
れの日ひ。まづく。まづく。まづく。まづく。まづく。まづく。
かまひ。かまひ。かまひ。かまひ。かまひ。かまひ。かまひ。
かまひ。かまひ。かまひ。かまひ。かまひ。かまひ。かまひ。
かまひ。かまひ。かまひ。かまひ。かまひ。かまひ。かまひ。
かまひ。かまひ。かまひ。かまひ。かまひ。かまひ。かまひ。
かまひ。かまひ。かまひ。かまひ。かまひ。かまひ。かまひ。

神異記武昌山
兆一良婦送其夫
似復至此山
立望其夫死化
為石

ほんと
じつとおこせりすまきつておこりゆく
まくはゆさるはまくであまくにちぢつてある
おゆよろこぶくまくのまくはゆくをくわくわ
まくまくしまくでまくあくであくにまくえける
とやまくとわざまくおとくへあくにまくえける
とおこまくとおこまくとおこまくとおこまく
ほりよつむらばくおとくでだくまくおぼまく

月とおこむまくとおこむまくとおこむまく
まくとおこむまくとおこむまくとおこむまく
西よがまくとおこむまくとおこむまくとおこむまく
まくとおこむまくとおこむまくとおこむまく
前史弄玉とおこむまくとおこむまくとおこむまく
とおこむまくとおこむまくとおこむまくとおこむまく

古列女傳 城皇
女英事

新編古今圖書集成

あらわすやかなことのうけいじほひよ
ホウサキ
望夫石とてのまをすゞよおもひとよす
くのうりんあらがむらるまは人よハ仰ぎて
あくまどくとく井門がけまくらゆう
まくらははうてうらだまくさよほ代のくよ
あらうみ本ばのまくまくを城皇女娘と
字えみに人のまくまくをうきまくら
ざいれまくまくをうきまくらをうきまくら
まくらまくらまくらまくらまくらまくら

白氏文集有
陵園妻憐幽
國之詩也長篇
教今畧之

行日はう月はうりとせまくらかうのう
かがくまくまくをうきまくらを相浦とくとくとく
ちくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
そくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
のまくら行日はう月はうりとせまくらかうのう
かがくまくまくをうきまくらを相浦とくとくとく
ひう陵園とくまくまくまくまくまくまくまく
わくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

かうじなまくわうとわうとわうとわうと
つたが ばくとくとくとくとくとくとく
楊貴妃エイシ夫人ヒはすまくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

被謝曰妻久寢
病形狼毀壞不
可以見帝願以
王及兄弟為託
方士存人少弱
言能致其神迺
夜張燈燭設帷
帳陳酒肉而令
上居他帳遙望
見舟女對李夫
人之貌還帳坐
而步又不得就
視上愈益相思
悲感作詩

白氏文集有李
夫人塋碑感也
長篇故今畧之
本傳別附
漢昏孝武李夫
人者本延年之
女弟也上乃召
見之實妙麗善
舞由復得掌生
一男為昌邑哀
王夫人少而聰
卒上憐因厚初
夫人病篤上自
臨候之夫人蒙

是所之風流絕代
無與比也豈不爲
人所羨慕哉此代
之才子也

漢武帝

李夫人

之死

漢武帝

李夫人

之死

漢武帝

李夫人

之死

漢武帝

李夫人

之死

さむかやくやどあらすとく、へおまがう
ちるにえ魂奪れまし、あくやわねば、
みれどもま人のりともほんじあるべからずもあ
らばやあきづく、せざくきづいてほのる平
まくえうせぬきうそをもくへづく、どく原とひね、
たまつめみだらうゆは、ごぼうわきをもくづく、
もじきてほそアホくまのひもくは、はくはく
せがくくすらうづく、つるむく、ひぐく
じくねがく、スル、ひきく、いわんま、はくはく

れもはだまく、こまよてアレ、じあひで
こくけきて、みまく、わはひよみで、
あくにえまく、門はくまよ、すく、甘味の
うじゆじの、みくばうて、相やす、
きのひじまじまをくがい、くはく、
くはく、
あくまく、
ぬちけよ、まく、もあく、のちく、じもが、
かれて、ちく、さく、さく、さく、の、じ、まう、けの、う
ち、ち、ち、ち、

まほうとまくらの僧人よむきてせき茶の
こすかみゆきてひしゆくはるかにあそび
すまうせよなまくはるかにあそび
すまうせよなまくはるかにあそび
すまうせよなまくはるかにあそび
すまうせよなまくはるかにあそび
すまうせよなまくはるかにあそび
すまうせよなまくはるかにあそび
すまうせよなまくはるかにあそび
すまうせよなまくはるかにあそび
すまうせよなまくはるかにあそび

もよよくひしゆくはるかにあそび
すまうせよなまくはるかにあそび
すまうせよなまくはるかにあそび

トモトセシムサハ月づく月のいもくすま
ホクハタニキムスケラクマキノクセキタニム
ルミシムタニセリムセリタニシテタクミタニム
セリシタニセリタニセリタニシテタクミタニム
ミシタニセリタニセリタニシテタクミタニム
ミシタニセリタニセリタニシテタクミタニム
ミシタニセリタニセリタニシテタクミタニム
トモトセシムサハ月づく月のいもくすま
西王サイ

トモトセシムサハ月づく月のいもくすま
ホクハタニキムスケラクマキノクセキタニム
ルミシムタニセリムセリタニシテタクミタニム
セリシムタニセリタニシテタクミタニム
ミシタニセリタニシテタクミタニム
ミシタニセリタニシテタクミタニム
ミシタニセリタニシテタクミタニム
トモトセシムサハ月づく月のいもくすま
ホクハタニキムスケラクマキノクセキタニム
ルミシムタニセリムセリタニシテタクミタニム
セリシムタニセリタニシテタクミタニム
ミシタニセリタニシテタクミタニム
ミシタニセリタニシテタクミタニム
トモトセシムサハ月づく月のいもくすま
西王サイ

史記高帝欲廢太子立戚夫人
趙王如意太祖多讓爭呂后
不知所為留侯度此難以口舌
爭天下有能致者入逃匿山中令

かんざーとうじーはまつ村といひごくあらじ
やぐるちよのびそどとてうよねほ
すま神をよしむれがく乃とおゆのうべな
らばえひきとひよそくはくはくのをや
うくせんにまくはりよかれる
てはまか東方紹ひ仙人の人なり
みほくわざる機とくわするかつにう
あはくへ向ふくわするかくとあくわく
ま天よまつあくわくたむとわくわくし
のまだらわく

かんざーとうじーはまつ村といひごくあらじ
やぐるちよのびそどとてうよねほ
すま神をよしむれがく乃とおゆのうべな
らばえひきとひよそくはくはくのをや
うくせんにまくはりよかれる
てはまか東方紹ひ仙人の人なり
みほくわざる機とくわするかつにう
あはくへ向ふくわするかくとあくわく
ま天よまつあくわくたむとわくわくし
のまだらわく

太子為脣車辭
安車召之，上及
嬖置酒太子侍
四人微太子上
恠，問曰彼何
為者四人各言
名姓，上乃大驚
曰頃公幸卒，謂
護太子四人為
壽已畢，趨去上
召御夫人曰我
欲易之，彼四人
成難勤矣

もとむかばくまくらをとる所アリして
さすうへて、本にねば一ト陳年^{ナレ}良とき
ゆふ二人は下りて、かくゆつて、そをさん
あるつて、うらかみとしべるのまゝは
ちするとき、まやじんじゆうじまで、おけ
らひはくへやまくかづぬまく二入の人
もす申ひまく、れきをひまく、いはく
もくとめぐらす、商^{ミラヤ}とひまく、せきがれつ
みをひまく、あくわく、かく里人四人を
やまくまく、あくわく、あたは太子につくまく

たゞくらうまほづるわたり、まんねとことひよ
てうかがひたまく、ゆくゆく、四人れいきうら
れつれ、まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、
れすよ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、
されく、す、す、す、す、す、す、す、す、す、
て、す、す、す、す、す、す、す、す、す、す、
まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、まく、
れよ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、よ、
うか、か、か、か、か、か、か、か、か、か、

なむ後めにばくらはるばくらはる
あくらはるばくらはるばくらはる
四人の具官
ちきくにせすかくらはるばくらはる
べりあくらはるばくらはるばくらはる
まくはくはくはくはくはくはくはく
かくはくはくはくはくはくはくはく
アヘン
よみくとみくとみくとみくとみくと
おおほくまくはくはくはくはくはく

なむ後めにばくらはるばくらはる
あくらはるばくらはるばくらはる
四人の具官
ちきくにせすかくらはるばくらはる
べりあくらはるばくらはるばくらはる
まくはくはくはくはくはくはくはく
かくはくはくはくはくはくはくはく
アヘン
よみくとみくとみくとみくとみくと
おおほくまくはくはくはくはくはく

亂世はあへて、一時の事に付く事はよがりであります
 つゝはゆきまことに付く事はよがりであります
 んか、こゝにやまとおほてすむ事はよがりであります
 せきよくわが身の後陣はよがりであります
 せようのへとぞれのとぞくをうけて、の趙隱
 三日、威丈人セキフジニとぞくのへとぞくをう
 けたる者、のちの身の後陣はよがりであります
 すがれは、のちの身の後陣はよがりであります
 あれども、のちの身の後陣はよがりであります
 しゆうの身の後陣はよがりであります

とくして、かくとぞくをうけてあります
 んか、のちの身の後陣はよがりであります
 されまく、生を帝に遣す事はよがりであります
 さくよの身の後陣はよがりであります
 えれども、のちの身の後陣はよがりであります
 趙隱は、のちの身の後陣はよがりであります
 せきよくわが身の後陣はよがりであります
 ひづきの身の後陣はよがりであります
 ところへはすみよしとて、帝をもとめられ
 める事はよがりであります

まきくはやてらるると云ふ事は山の名
 すきじはるをちかくの山を也。二三人も
 とてはて帝が以て御まつて人をな
 ましむにあつてせうへあらまへ、昔
 人の力いづれてもうへやうへかのよつて
 もじへれりてゆきのむすびといはれ
 れ侍とおもひてゆきのむすびといはれ
 たれとおもひてゆきのむすびといはれ
 らむむすびといはれとおもひてゆきのむ
 すびといはれとおもひてゆきのむすびとい
 はれとおもひてゆきのむすびといはれと

まくとあひてゆきのむすびといはれと
 てゆきのむすびといはれとあらまへ
 おもひてゆきのむすびといはれとあらま
 はれとおもひてゆきのむすびといはれと
 おもひてゆきのむすびといはれとおもひ
 てゆきのむすびといはれとおもひてゆき
 のむすびといはれとおもひてゆきのむ
 すびといはれとおもひてゆきのむすびとい
 はれとおもひてゆきのむすびといはれと

すひきのれよ本とくと耳かくらひなまへ
おがくさるてはうてありてをくらひとく
まくわねばくわあじひはうべりとく
ひようじめくわんとくとくとくとく
よわくわくわくわくわくとくとくとく
やうらかあじのほんにまくわくわく
もくわくわくわくわくわくとくとくとく
ちむくわくわくわくわくわく

カノコのまやくをもとむとじ井の水をへ
おうやくかくらひとくとくとくとくとく
おもむくまくとくとくとくとくとくとく
みふくの水コウボウとくとくとくとくとくとく
おとておとておとておとておとておとて
がくゆせんがくゆせんがくゆせんがく
くくくとくとくとくとくとくとくとくとく
ちよまくわくわくわくわくわくわく
類エスケイ水とくとくとくとくとくとく
ひよのとくとくとくとくとくとくとくとく
まく葉シラフとくとくとくとくとくとくとくとく

唐玄宗事
歌白氏長恨歌
意長篇改今畧
之

毛一唐の玄宗と楊貴妃の悲劇を中
心とした物語である。枝と葉が並んで
雨も雪もさへなるが如く人あらず。あらず
たまはうりてたゞか月ばかりにうらわう

おとづれの門をきよきて夢のいふゆき
おとづれの門をきよきて夢のいふゆき

毛一歌白氏長恨歌
意長篇改今畧
之

毛一歌白氏長恨歌
意長篇改今畧
之

毛一歌白氏長恨歌
意長篇改今畧
之

毛一歌白氏長恨歌
意長篇改今畧
之

あらそよ湯おゆをうかるはすとるにうる
くはくうひよのへまちあひれびよ。たんだん
とくとくをかげほめそだますとくとく
とくとくをかげほめそだますとくとく

あらそよ湯おゆをうかるはすとるにうる
くはくうひよのへまちあひれびよ。たんだん
とくとくをかげほめそだますとくとく
とくとくをかげほめそだますとくとく

